

追加処分に関するペナルティ・ガイドライン

(公財)日本アイスホッケー連盟審議委員会
2021年11月15日改正、2021年12月1日運用開始

ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手および役員			
略語表示	条項	反 則 の 内 容	自動的な追加処分 〔試合数〕
	23	ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手で、以下の条項に該当しないもの。	0
ABUSE	39.5- I	ミスコンダクト・ペナルティを科された後も、オフィシャルの裁定に異議を唱え続けるプレーヤー。	1
ABUSE	39.5- II	ベンチ・マイナー・ペナルティを科された後に、プレーヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、オンアイス・オフアイス・オフィシャルに対して、卑猥な、冒瀆的な、または乱暴な言葉やジェスチャーを使用したり、オフィシャルの名前を大声で叫んだりした場合、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。試合終了後に氷上またはそれ以外の場所でこの行為があった場合には、それ以前にベンチ・マイナー・ペナルティが科されていなくても、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。	10
ABUSE	39.5- III	いかなる方法であれ、オフィシャルに対して故意に身体的な力を加え、その行為がオフィシャルに負傷を与える可能性があった場合、身体的に品位を落とした場合、または口論の最中または直後に当該オフィシャルから自由になることのみを目的として故意に身体的な力を加えたプレーヤーは、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。	5
ABUSE	39.5- IV	ペナルティ・ボックスに入ったプレーヤーが、オフィシャルの裁定に抗議する目的で、ペナルティの終了前にペナルティ・ボックスを離れた場合、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。	1
ABUSE	39.5- VI	レフェリーの判定に抗議して、スティックやその一部、その他の用具や物を競技エリア外に投げ出したプレーヤーには、「アンスポーツマンライク・コンダクト」のマイナー・ペナルティと、ゲーム・ミスコンダクトが科せられる。	1
ABUSE	39.5- VII	プレーヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、レフェリーのいる方向に向かって用具やその他の物体を投げたり打ったりしたが、接触する寸前までいかなかった場合。	3
ABUSE	39.5- IX	選手、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、試合中または試合後に、氷上または氷上外で、アリーナおよびその関連施設内のあらゆる場所で、オフィシャルに対して唾を吐いたり、血をぬぐったり、卑猥な言葉や下品な言葉、虐待的なジェスチャーの使用、人種的な中傷や嘲笑、性的な発言をした場合。	10
CHE-B	43.5	「チェッキング・フロム・ビハインド」に対してメジャー・ペナルティが科される場合は常に、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さねばならない。	3
CLIP	44.5	「クリッピング」に対してメジャー・ペナルティが科された場合は常に、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さねばならない。	1
FIGHT	46.1	少なくとも1名のプレーヤーが相手を何度も殴るか殴ろうとした場合、または2人のプレーヤーが格闘し、ラインパーソンが介入して2人を引き離すことが困難な場合に、ファイティングが起きたとみなした場合。	3
FIGHT	46.3	いさかいの『扇動者』。いくつかを行動や態度で示したプレーヤーのこと。最初にグローブを外したこと、最初にパンチを放ったこと、威嚇的な態度や姿勢、言葉での扇動や脅し、以前の試合でのできごとに対する報復行為、以前の試合でのできごとに対する明らかな報復行為。	3
FIGHT	46.4	明らかに勝負がついているものの、もはや身を守れないポジションにある相手にダメージを与えようとして、または負傷させようとして、何度も殴り続ける場合には、そのプレーヤーをアグレッサーとみなす。いさかいのアグレッサーとみなされたプレーヤーには、マイナー・ペナルティ(アグレッサー)に加えて、メジャー・ペナルティ(ファイティング)と、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ(2+5+GM)が科される。	3

FIGHT	46.7	すでに進行中のいさかいに最初に介入したプレーヤー(サードプレーヤーイン)には、元のいさかいにマッチ・ペナルティが科せられている場合を除き、レフェリーの裁量により、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科せられるものとする。	3
FIGHT	46.9	試合時間外のファイティングに関わったプレーヤーにはメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すこと。	3
FIGHT	46.10	バックをドロップする前のファイティング。通常のフェイスオフの過程でバックをドロップする前に発生したいさかいは、試合開始前またはいずれかのピリオド開始前に起きた場合を除き通常のプレー時間中のものとしてペナルティを科すこと。	3
FIGHT	46.11	リンク外でのファイティングやリンク外にいる他のプレーヤーとのファイティングに関わったプレーヤー。	3
FIGHT	46.16	「氷面外でのファイティング」や「氷面外」にいる他のプレーヤーとの「ファイティング」に関わったプレーヤーには、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。これらのペナルティは、メジャー・ペナルティ(「ファイティング」)を含めたその他のタイム・ペナルティに加えて科される。コーチまたは他のプレーヤー以外のチームの人員が相手プレーヤーとのいさかいに関わった場合は常に、コーチや他のプレーヤー以外のチームの人員には、氷上か氷上外かにかかわらず、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科され、自動的に試合から退場させられ、更衣室に行くよう命じられる。	3
H-BUT	47.5	「ヘッドバット」に対してメジャー・ペナルティが科された場合は常に、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さねばならない。	3
KNEE	50.5	「ニーイング」に対してメジャー・ペナルティが科された場合は常に、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さねばならない。	1
UN-SP	53.5	競技エリアからスティックまたはその一部、またはその他の物を競技エリア外に故意に投げたプレーヤーは、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。オフィシャルの判定に抗議して行われた場合には、「アンスポーツマンライク・コンダクト」に対するマイナー・ペナルティに加えて、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。	1
BUT-E	58.5	「バット・エンディング」に対してメジャー・ペナルティが科された場合は常に、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならない。	3
SPEAR	62.5	「スピアリング」に対してメジャー・ペナルティが科された場合は常に、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さねばならない。	3
UN-SP	75.5- I	ミスコンダクト・ペナルティを科されたあらゆる行為をしつこく続けたプレイヤー。	1
UN-SP	75.5- II	試合中または試合後に、氷上または氷上以外のあらゆる場所で、卑猥なジェスチャー、人種的な中傷や嘲笑、性的な発言をしたプレイヤー、コーチ、プレーしていないチーム関係者。	10
UN-SP	75.5- III	リンク内のあらゆる場所で卑猥な言葉やジェスチャーを使用した場合で、以前にベンチ・マイナー・ペナルティを科されているコーチおよびプレーしていないチーム関係者。	5
UN-SP	75.5- IV	選手、コーチ、その他プレーしていないチーム関係者が、コーチやその他プレーしていないチーム関係者に対して、何らかの形で傷害を引き起こす可能性のある行為を行った場合。	5
UN-SP	75.5- V	試合終了後、卑猥な言葉やジェスチャーを誰かに向けて行ったプレイヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者。	10
UN-SP	75.5- VI	試合中に、対戦相手やリンク内の人に唾を吐いたプレイヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者。	10
UN-SP	75.5- VII	出血しているプレイヤーが、故意に体から出た血液を相手またはリンク内の誰かに塗りつけた場合。	5

マッチ・ペナルティを科せられた選手および役員			
略語表示	条項	反 則 の 内 容	自動的な追加処分 〔試合数〕
	21	マッチ・ペナルティを科せられた選手および役員で、以下の条項に該当しないもの	2
CHE-B	43.4	背後からのチェックで無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	5
CLIP	44.4	クリッピングの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	3
FIGHT	46.5	テープなどを手(手首より下)に付けているプレイヤーが、いさかいの最中に相手を切ったり傷つけたりした場合、この規則により「ファイティング」に対するものを含めた他のペナルティに加えて、マッチ・ペナルティを受ける。 予測していない相手や「戦闘意思のない者／相手」にパンチを与え(すなわち「不意打ちのパンチ」)、負傷させる可能性のあったプレイヤーには、マッチ・ペナルティが科される。	5
H-BUT	47.4	ヘッド・バッティングの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	5
CHE-H	48.5	イリーガル・チェック・トゥ・ザ・ヘッド・オア・ネックの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	5
KICK	49.3	プレイヤーが相手プレイヤーを「蹴る」または「蹴ろうとする」とレフェリーが判断した場合、レフェリーの裁量により、マッチ・ペナルティを科す。このペナルティは、接触がなくても、「蹴る」と判定された場合にはすべてマッチ・ペナルティとなる。	5
KNEE	50.4	ニーイングの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	3
SLEW	52.2	相手プレイヤーにスルー・フットイングをしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	3
BUT-E	58.4	バット・エンディングの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	5
HI-ST	60.4	ハイ・スティッキングの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	3
SPEAR	62.4	スピアリングの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	5